

2015年に流行語になった 爆買いとは？5Wで分析

福岡教育大学
王 艶麗

誰かが爆買い？ WHO

- ◆ 多くの割合を占めているのが**中国人観光客**です。最初は富裕層に着目していましたが中国からのクルーズ船の就航も多くなり広い層の中国人が日本へ旅行に来るようになりました。この人たちがさらに爆買いのイメージを大きくしました。クルーズ船の買い物時間は短く、短時間に集中して大量に買い物するのでインパクトがあります。



なぜ爆買いができるのか？ WHY

- ◆
- ◆ 中国の経済成長
- ◆ たくさんの理由の中で1番の理由はこの経済成長です。中国人の人口は以前から多いのはほとんど変化ありません。昔から中国人はたくさんいるんです。
- ◆
- ◆ 変化したことは経済成長をして収入が上がり、中間層の人たちも海外旅行できるようになり、買物できる余裕ができたんです。
- ◆
- ◆ 円安
- ◆ 経済成長とも関係しているのですが、円安が経済成長よりもさらに短期間で急速に進みました。1年前からしても大幅に違います。中国人は1年前より安く旅行ができ、買物ができるのです。
- ◆
- ◆ 円安だけでいえば日本とのレートの関係なので、台湾やタイやアメリカやオーストラリアも同じことが言えます。テレビでは米ドルとの関係ばかり報道されますが、円と人民元や円とオーストラリアドルとの関係も見ていくとすぐにその国の日本での買物事情がわかります。

何を爆買い？ WHAT

- ◆ 炊飯器がまずクローズアップされました。220Vの日本のメーカーの炊飯器を何台も買っていく光景がテレビで何度も繰り返し放送されました。その後、炊飯器だけでない爆買いにも注目されていきました。ドラッグストアの医薬品は神薬と呼ばれるようになりました。爆買いの恩恵を受ける企業の株価は上昇し、インバウンドと呼ばれるようになりました。



爆買いの時期は？ **WHEN**

- ◆ 年間を通して底上げされ、いつでも爆買いをしています。その中でもピークとされているトップ3のランキングはこちらです。
- ◆
- ◆ 1位:春節(旧正月)
2位:国慶節(10月)
3位:夏休み
- ◆
- ◆ 夏休みはクルーズ船の需要も高く、子供が休みなので家族で日本へ来る人も多くいます。国慶節は中国のゴールデンウィークのような連休です。中国は西暦のニューイヤーよりも旧暦の旧正月に連休があります。春節は財布の紐も緩むため旅行もするし爆買いにもつながります

どこで爆買い? WHERE

- ◆ マスコミでは秋葉原や銀座の光景がクローズアップされました。この秋葉原、銀座を筆頭に全国各地に爆買いの光景があります。例えば年間100隻以上の大型クルーズ船が寄港する福岡もその一つです。北海道の千歳空港を始めとする地方の空港の国際線の免税店でも大量の買い物をしています。中国人観光客が集まるところにお土産屋さんや家電量販店があれば爆買いは自然と起きました。地方のスーパーやショッピングモールでも中国人観光客が立ち寄れば爆買いが起きるのです。



この「爆買い」傾向はずっと続くのでしょうか

- ◆ 訪日中国人旅行客のうち、今回「ショッピング」をしたという人は、**66.3%**となっています。しかしながら、次回したいこととして「ショッピング」を挙げた人は、**31.8%**と半分以下になっています。逆に、今回「自然体験ツアー・農漁村体験」をした人は、**6.4%**、「四季の体感(花見・紅葉・雪など)」は**5.7%**、「日本の歴史・伝統文化体験」は**12.4%**、「日本の生活文化体験」は**9.6%**と少数派に過ぎません。しかし、次回したいこととしては「自然体験ツアー・農漁村体験」**21.8%**、「四季の体感(花見・紅葉・雪など)」**34.1%**、「日本の歴史・伝統文化体験」**22.4%**、「日本の生活文化体験」**26.5%**とそれぞれ**2～6倍**の体験意向を示しています。



ご清聴ありがとうございました